

2022 年度事業報告書

I. 概況

我が国の痛風患者数は約 125 万人、高尿酸血症患者は約 1,000 万人と推定されているが、生活環境の変化等も加わり更に増加し続けていると言われている。

また、近年痛風の要因でもある尿酸自体の研究に関する論文も多く発表され、尿酸が痛風や腎臓・心血管のみならずその他多くの疾患に関係していることが明らかになりつつあり、当財団はこれ等研究者への支援助成を事業の中核とし、医師や医療関係者を対象とした教育研修の実施を通じて痛風・尿酸に関連する疾患の医療の質の向上と発展を目指し、一般国民への啓発活動と、国民保健の向上へ寄与することを基本理念として事業を行った。

一方で、事業を支える財政面では、低金利政策の影響に加え、長引く新型コロナウイルス感染症の流行による経済の減速、原材料価格の高騰による物価上昇などの影響があり、引き続き厳しい運営を求められている。

II. 事業の概要

1. 研究助成事業

痛風・尿酸・核酸代謝に関する臨床的或いは基礎的研究を対象として、その研究成果が疾患及び病態の成因と治療や予防に有用な影響を与えるものと期待される研究を対象に助成を行った。

募集は、財団ホームページや医学関係の新聞や雑誌などへの掲載を実施し、9月1日から10月31日まで応募を受け付け、応募総数は44件であった。

選考は理事会で選任された外部有識者を含む各専門分野の選考委員7名で応募書類を事前に審査し、その結果をもとに12月9日開催の選考委員会で審議を行い、研究助成対象者16名に総額610万円の助成を実施した。

[選考委員]

山中 寿 医療法人財団順和会山王メディカルセンター 院長
公益財団法人痛風・尿酸財団 理事長

鎌谷 直之 スタージェン医療人工知能研究所 所長、財団理事

小林 修三 医療法人徳洲会湘南鎌倉病院 院長

仲川 孝彦 滋賀医科大学再生医療開拓講座特任教授

藤尾 圭志 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻アレルギー・リウマチ学

細谷 龍男 東京慈恵会医科大学 名誉教授、財団理事

山下 浩平 京都大学大学院医学研究科准教授

[研究助成対象者]

西澤 均	大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 講師	内	肝由来 XOR の動脈硬化進展メカニズムの解明とその臨床応用 ～NAFLD/NASH と動脈硬化症の連関～
永森 收志	東京慈恵会医科大学 准教授		尿酸輸送超複合体の一細胞レベルでの機能・構造解析
山本 伸也	京都大学医学部附属病院腎臓内科学 助教		エネルギー代謝からせまる人工冬眠における腎保護メカニズムの解明
山下 浩平	京都大学大学院医学研究科 血液・腫瘍内科学 准教授		炎症性疾患に対する新規治療法の探索ー好中球細胞外トラップ制御からのアプローチー
渡辺 彰吾	岡山大学大学院保健学研究科 准教授		キサントニン酸化還元酵素阻害薬による痩せ型 NASH および動脈硬化への治療効果
山田 晴也	早稲田大学 人間科学学術院 助教		神経発生過程におけるプリン新生・再利用経路の機能解析
山内 高弘	国立大学法人 福井大学医学部病態制御医学講座内科学(1)血液・腫瘍内科 教授		新規バイオマーカーを用いたがん患者高尿酸血症新リスク分類の確立
関根 舞	東京薬科大学 助教		Lesch-Nyhan 症候群患者由来 iPS 細胞を用いた病態解析
古橋 真人	札幌医科大学循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座 教授		COVID-19 の重症化リスクと関連する尿酸と ACE2 についての検討
玉井 郁巳	金沢大学医薬保健研究域薬学系 教授		尿酸結合タンパク質 CD38 を介した尿酸の生理・病理作用に関する研究
中西 弘毅	東京大学循環器内科 助教		尿酸が左房の構造的・電氣的リモデリングに与える影響の解明
藏城 雅文	大阪公立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学 講師		キサントニン酸化還元酵素抑制の血糖コントロールにおける意義の解明
経遠 智一	鳥取大学医学部再生医療学分野 助教		尿酸塩結晶の血管内皮細胞に及ぼす影響に関する網羅的研究
後藤 信一	東海大学医学部 総合内科 専任講師		高尿酸血症により心不全を呈する症例の検出および関連遺伝子の同定
程 継東	兵庫医科大学糖尿病内分泌代謝科 特別招聘教授		肝細胞のミトコンドリアオートファジーにおける高濃度の尿酸とインスリン抵抗性の関連について検討
大内 基司	獨協医科大学医学部薬理学 学内准教授		1,5-anhydro-D-glucitol と尿酸連関の検討

2. 研修会開催・痛風協力医療機関推薦事業

① 第33回痛風・尿酸研修会

全国の医師・薬剤師・栄養士など医療関係者を対象として9月11日(日)にZoomシステム利用によるWEB形式にて開催した。

痛風協力医療機関への案内やホームページにて参加者を募り、医療関係者など85名の参加があった。

研修プログラムと講師は以下の通り

第1部 高尿酸血症・痛風診療の基本 座長 藏城雅文 大阪公立大学医学研究科講師

・痛風関節炎の診断と治療

長瀬満夫 長瀬クリニック院長

・高尿酸血症と合併病態の治療

嶺尾郁夫 ペガサス馬場記念 病院糖尿病科部長

第2部 高尿酸血症・痛風診療の進歩 座長 久留一郎 米子医療センター 病院長

・高尿酸血症と痛風のエビデンス：この1年間のアップデート

仲川孝彦 滋賀医科大学再生医療開拓講座特任教授

・尿酸研究の最前線：この1年間のアップデート

山下浩平 京都大学大学院医学研究科准教授

第3部: 質疑応答

各講師及び山中寿理事長

第34回痛風・尿酸研修会は9月10日(日)に開催予定。

② 痛風協力医療機関推薦

新たに下記医療機関を推薦した。この結果、3月31日現在の痛風協力医療機関は全国で合計120機関となった。

【推薦医療機関】

呉中央クリニック整形外科 (湯川兵夫先生)

広島県呉市中央1-5-21

3. 啓発事業

① インターネットによる啓発

2022年度のページビュー数(アクセス数)は年間100万件を超えるまでになったが、ホームページ内の滞留時間はまだ短い為、更なる改定が必要と考えている。今後も痛風や高尿酸血症などについての最新知識や診療機関の情報を掲載し便宜に供していきたい。

② 患者や家族などから問い合わせへの対応

診療医療機関の紹介依頼には、居住地域を考慮の上で痛風協力医療機関を紹介し、発作時の

対処方法や食事に関することなどに対しては、専門医師などに問い合わせを行いその内容を伝えている。

③ 小冊子及び会報による啓発

「尿酸値をコントロールする」など小冊子は、全国協力医療機関を通じて患者や希望者に配布を行っている。

会報については、1月に財団評議員などからの寄稿文や最新情報を掲載した新年号を発行し会員や協力医療機関に配布した。

Ⅲ. 会員の現況 (2023年3月31日現在)

個人賛助会員 101人

団体賛助会員 12団体

特別賛助会員 8団体

以上